

哲學研究

第九卷 第九冊

第二百二號

大正三十三年九月一日發行

山鹿素行に於ける士道論的思想の發達……………

文學士 加藤 仁 平

武士道の起原及び特質(二)……………文學士 高橋 俊 乘

内部知覺について(承前)……………文學博士 西田 幾 多 郎

故マックス・フリッシャイゼンケラーの教育學界

に於ける效績……………文學士 伊 藤 猷 典

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 内 部

京 都 哲 學 會

題におく、從て高等教授並に本來の教育の問題は等閑に付す傾向がある。又古代啓蒙期の教育學の意味に於て兒童の天性に絶對的に適應するといふ事になりやすい。けれども成熟者の文化並に高等教育に兒童を適應させようとする拒否し難き要求と自己の天性と戰ふ事に於て矛盾に陥る。」

ヘルゲット氏の紹介は以上にて盡きてゐる。原本にはまだ有益なる個所があるかも知れぬがそれは原本を得た後、何かの機會にのべる事とする。前記の文のみにては教育學者に取て得る所の如何に多きかは何人も容易に首肯し得る事と信ずる。フ氏の所説に缺陷を見出し得ない。自分が前文を紹介するに當り希望する所は現今の實驗教育學がフ氏の稱する限界以上にどれだけ突破したかを實驗教育學者の側から教へて貰ひたい事である。かく

云ふはともすれば誤解され易き輕侮の念から云ふのでなくして自分が實驗教育學の現状に暗いが爲に、それを知りたいとの學的興味から希ふのである。

要之にフ氏が教育學の方法論上に一大開拓をなした事はナトルプの「社會教育學」や「哲學と教育」の效績に比肩すべく、教育の實驗的過程の限界を明確にせる事はモイマンやライ等の實驗教育學者の積極的效績と及び稱すべきものでなからう歟。

寄贈書籍雜誌

マックス・ヴァーナー
立體派の詩

篠崎初太郎譯
大阪異端社

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、日本心理學雜誌、觀想、教育研究、内外教育評論、學校教育、教育時論、彌王樹、三田文學、信濃教育、東亞之光、教育學術會、支那學、東洋思想研究、社會學雜誌、講座、

前 號 目 次

教育目的としての價值體系……………	文學士	伊藤猷典
武士道の起原及び特質……………	文學士	高橋俊乘
カントの目的論(完)……………	文學博士	田邊元
具體的人生の研究……………	文學博士	野上俊夫

告 會

- 一、本會へ入會希望者へ京都市西洞院七條南内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
 - 二、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切ノ事務ハ内外出版株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
 - 三、會費ハ振替口座大阪支〇六六三番、内外出版株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
 - 四、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候
- 京都帝國大學
文學部内 **京都哲學會**

定 規 文 註

- ◎ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候
- ◎ 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
- ◎ 振替貯金にて御送金は(振替大阪三三九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候
- ◎ 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- ◎ 特に請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	郵	稅
一冊	冊	金	四拾錢	金	壹錢
六冊	(前金)	金	貳圓四拾錢	不	申
十二冊	(前金)	金	四圓八拾錢	不	申

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十三年八月廿五日印刷納本
大正十三年九月一日發 行

第百二號 第九卷
京都帝國大學文學部内

製複許不
載 轉 禁

編輯者 京都哲學會
右代表者 伊藤猷典
發行者 大谷仁兵衛
印刷者 村上勘兵衛
印刷所 内外出版株式會社印刷部
京都市西洞院七條南入

發行所

京都市下京區西洞院七條南
内外出版株式會社

本 社 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地
販賣所 京都市神田區錦町一ノ一
内外出版株式會社

賣捌所
(東京) 東京堂 東海堂 北隆館
(大阪) 上田屋 至誠堂
(神戸) 寶文館 川瀨書店
(京都) 共盛社 大盛社

振替口座 大阪三三九五番
東京三九三一番